



【 晓天講座 】

これまでに経験したことのない茹だるような酷暑に熱中症が懸念され、気力、体力も萎えてしまう夏真っ盛りがやつとすぎたようである。ところが今年の台風の多いこと、逆コースを辿るもの、ハリケーンから台風へ変わるといったものまで飛び出しこの地球も何かの兆しを見せているのだろうか。近年、自然災害も頻繁に発生して生きる私どもの社会に一層不安を搔き立てている。自然に逆らうことなど人知の及ぶところではない。社会の動向も未来に希望すら持てない事象が目に耳に容赦なく入ってくる。

幼子の無事発見、これにはもうれなく誰もが胸を撫で下ろしたものである。一方、七月には三人死刑執行、これには驚かさせられた。上川法務大臣の淡々と發せられる言葉は「慎重な検討を

加えて執行を命じた」執行は一点の曇りもない判断であることを強調し「鏡を磨いて磨いて磨いて磨ききる」と二回の執行とも断言した。この冷酷無情と思える言葉の背景には国民世論が後押ししていることを注意しておかねばならない。世論も所詮、人間煩惱の集積で、過ちを必ず繰り返してきることは歴史が証明している。取り返しがきかない事が以外にもこの社会に数多く存在していることに気付かされている。

人間の営みは本質的には法律によつてその社会を構成しているわけではなく、人が安心して暮らしていけるのは、信頼と心が触れ通い合う関係によつて成り立つのである。つまり、あらゆる生活の現場はさやかな運命を共にしているがゆえに、オールチームプレーこれが原点である。自己責任と孤立化の色彩が強くなつていく世相に落ち着けないものを感じるのは私だけであろうか。すべてを委ね任せて生き切れる自己の存在とその社会の実現、これが現代の大好きなキーワードなのかもしれない。私のような華奢な人間には兎に角暑い、この暑さにも順応して生きることが求められているのだろうか。

「凡夫はすなわち、われなり」本願力を信頼するをむねとすべしとなり

(一念多念文意)

煩惱具足の身であるがゆえに、本願に生きる道を訊ね続け、その身をいただきたく思う。

本願力

〒234-0051

横浜市港南区日野一一一一八

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院

(○四五) 84-1134三四

FAXTEL
(○四五) 84-1134二八
(http://www.yokohama-oootani.com)

雜感
輪番 坂田 智亮

新盆法要（七月八日）

横浜別院では、毎年七月の第二日曜日に新盆にあたる別院門徒の方々をご案内して、新盆法要を勤めています。今年は、十七家族五十六名の方に参詣をいただきました。輪番の挨拶・法話があり、法要が勤まりました。猛暑の中、ご参詣いただきありがとうございました。（文責 家本）



暁天講座（八月二十五日・二十六日）
レポート 横浜別院列座 家本久和

暁天講座は二〇一二年から開催している講座で、今年で七年目となります。午前六時三十分からの始まりに関わらず、両日五十名を超える参加者で賑わいました。一日目は、マイケルコンウェイ師（大谷大学文学部専任講師）による法話がありました。マイケル先生は、現在大谷大学で教壇に立つておられ、真宗学や英語などを授

業されています。講題「信心の歩み－信楽の内容の二側面」というお話の中で、印象に残った部分を紹介させていただきます。

「苦はインドでは Dukkha（ドウツカ）と言い、Dukkhaを苦と訳されましした。DUというものは悪い、KHAというものは穴、空間という意味で、Dukkhaは、悪い車軸の穴という意味になります。乗り心地が悪いと、精神的にも、肉体的にも、辛くなるというのが苦の語源である。」というお話がありました。確かに、ガタガタと上下左右に揺れる車に乗つたら、酔いますし、気持ち悪くなり、苦しいですね。苦というのが具体的な表現で分かりやすかつたです。

二日目は、名倉幹師（北米開教区開教使）による法話がありました。名倉先生は、現在アメリカニューヨークで法話会などを開催し、地道な布教活動をされております。

講題「二つの気づき－悪人と自覚の救い」というお話の中で、印象に残った部分を紹介させていただきます。「蓮如上人御一代記聞書には、『仏法には、明日と申す事、あるまじく候う。仏法の事は、いそげ、いそげ』とあります。この言葉は、今しか、本当に大事なことに目覚める時はあります。」と勧めているのです。」というお話を聞きました。人間には寿命がありますが、何か、ずっとこの命が続くように思つてしまふわけです。今しかない、という力強い言葉でした。

暁天講座の熱気をまた来年に続けていけ

五月十日、第三講「グリーケアの基礎を学ぶ研修会」となる今回は、「『聴く力』を育む」を講題のもと、引き続き一般社団法人「リヴォン」の尾角光美氏（代表）と水口陽子氏（理事）をファシリテーターにお迎えし、「聴く力を高めることを目的とした体験型のワークを中心に行なわれました。

「共感（もどき）ワーク」では、実際に一人の受講者の悩みに対し、一人ひとりが共感してコメントをすることを通して、共感して聞くということ、または共感して聴いてもらうことはどういう感じなのかを体験しました。そこでは、共感しているはずが、つい否定したり、アドバイスや自分の話に

グリーケアの基礎を学ぶ研修会 第三講レポート

企画広報部 主任 鞠川卓史



←マイケル先生

←名倉先生

すり換えてしまうということが起こりやすく、それは相談者と聴き手の間に断絶する生じさせてしまうこともあると考えさせられました。

さらに、「ロールプレイ」では用意されたシナリオ（死別に対する悲嘆）に従い、相談者、聴き手を演じるというものでした。シナリオに感情移入することで、相談者役は遺族の気持ちを知り、聴き手役は遺族に向き合う上で何を大事にするかを意識することを目的としました。（この体験を通して、聴いてもらえることの安心感・期待感）を相談者役が感じたり、演技だと分かつていても、相談者への返答に窮し「無力感」なかで、ただ聞くしかない」ということを聞き手役は痛感させられたことかと思します。また、私たちは「死」という言葉を聞くと「可哀想だ」「大変だ」と決めつけてしまいますが、ここでは相手の話に対して、「善悪・優劣・悲喜」で判断しない「D.O.N., + judge（まさに）」を大切にすることを教えられました。



【別院護持金のご依頼】
義相続・別院護持に毎年皆様には法とご理解を深めています。今年度も別紙のとおりご依頼を受けております。昨今の大変厳しい経済状況は重々承知しておりますが、よろしくお願ひ致します。

う望みや願いに繋げていくようなグリーフの支えは大切なことと述べられました。このような研修会は初めてでしたが、雰囲気も良く、あつという間の全三回でした。社会の実現を強く願われるなかで、お寺という現場においての可能性を多く示唆していました。本来、「悲嘆に寄り添う」ということはお寺で大事にされてきたことではあります。しかし、「亡き人と繋がる」「亡き人を想い続けられる」、そういう場所でもあると、いうことを再確認しました。今後、それぞれの現場においてグリーフケアの活動へ1歩踏み出して欲しいとの願いを込め、最後にご輪番より修了書が授与されました。



【横浜親鸞講座】生きることの意義 「親鸞のこころ『和讃』に聞く」

【日時】全六回、午後二時～四時

第一回 二〇一八年 九月十五日 (土)

第二回 十一月十七日 (土)

第三回 二〇一九年 一月十二日 (土)

第四回 二月二日 (土)

第五回 三月十六日 (土)

第六回 四月十三日 (土)

※第三回以降は、会場未定です。

【講師】藤原正寿 師(大谷大学准教授)
【会場】崎陽軒ヨコハマジャスト一号館八階

【受講料】一回 千円

【問合せ】西教寺内「横浜親鸞講座事務局」
TEL 045-231-5755

《神奈川四ヶ組寺院行事予定表》

【湘南組聞法集会二〇一八】
【日時】十一月七日(水)

午後二時～午後四時三十分
【講師】三島多聞師

(高山教区真蓮寺住職・高山別院輪番)
【会場】レンブラントホテル厚木

電話：〇四六-二二一-〇〇〇一
小田急線本厚木駅「北口」から徒歩約五分

※申込み不要・直接会場へお越し下さい。

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2018年9月～10月 ～どなたもご自由にお参りください～

定例法話		午後1時30分より		
9月9日(日)	三浦組	圓照寺	稻垣	裕之 師
9月28日(金)	別院	輪 番	坂田	智亮 師
10月9日(火)	横浜組	長慶寺	中村	良照 師
10月28日(日)	別院	輪 番	坂田	智亮 師

おみがき 午前10時30分より
10月6日（土）本堂の仏具を磨きます。
※古くなったタオルをお持ちください。
※9月18日、10月18日の同朋の会
の集いは秋季彼岸会法要、別院報恩講の
ためお休みです。

別院声明儀式研修会のご案内 《2018年度第2回声明儀式研修会》

【日時】 10月4日(木)
午後1時30分～4時30分

【講師】友松雅英 師
(東京2組西岸寺住職)

【講題】「別院報恩講 習礼」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

別院報恩講前の習礼となります。
報恩講（10月18日～20日）に
出仕を予定されている方は、
積極的にご参加ください。

秋季彼岸会法要 午後1時30分より

9月22日(土)・23日(日)

【法話】見義 悅子 師

(富山教区第10組正覺寺坊守)

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、自分の生活を振り返る大

大切な時です。
有縁の皆様におかれましては、ぜひご参
詣ください

報恩講

10月18日(木)

午後1時30分 初逮夜・法話・御伝釗
午後5時 報恩講夕べの集い
《シンガーソングライター・鈴木君代氏》
“ギター彈き語り&トーク”

10月19日(金)

午前7時 初晨朝・感話(渡辺覺師)
午前10時 初日中・法話
午後1時30分 待願建庵・御供體・法話

10月30日(土)

午前7時 結願晨朝・感話(別院門徒
午前10時 結願日中・法話

【法話】藤井 慈等 師

(三重教区南勢二組慶法寺住職)

九月になりましたが、まだまだ残暑きびしい日々が続くようです。最近の天気予報はかなり正確に当たります。四十℃に迫る酷暑の予報がでれば、四十℃近くになり、熱中症に注意が必要になり、台風の進路予想も日本に近づくかなり前から予報がだされます。台風の進路による被害状況まで想定されています。

「想定外」という言葉が、二〇一一年、東日本大震災の時にはよく聞かれました。そう思うと、震災からわずか七年の間に、また想定外という言葉が薄れつつあるように感じます。人間はどうしても想定せずにはいられないわけですが、目の前にあるこの瞬間だけよければ良いという、刹那的な考え方には限界があるようです。しかし、想定しながら予定を組んでいる私が間違います。

